

建築特集 **学校建築**

2017年6月号
No. 1267

倉方俊輔

「悪」のコレージュ

第6回…透明な若

今風に言えば、デザインは新しい貨幣価値を生じさせる。従来の常識を疑い、組み替えることによって潜在していた価値を顕在化させ、投下した資本に対してリターンをもたらす。コレージュはそんな才覚を持っていた。従来の勾配屋根をフラットルーフに置き換えることで、それまでは狭くて暗い使用人の屋根裏部屋でしかなかった最上部をリッチな空間に変貌させたのだ。実際にはこれを開発した業者は1935年に破産し、彼は資金回収のために建物を売却するという融資元の銀行との間で、自らの所有権を主張する長い裁判に巻き込まれただけだったが、やがてその発明は20世紀の資本主義社会の中で大いに模倣されるだろう。

屋根裏部屋を追い出された使用人たちはどこに行ったか。半数はメインエントランスから最も遠い1階の裏手に向かった。慈悲深くも作品集にはこう記されている。「使用人たちの部屋は地上階に設けられることで、大抵はおぞましい屋根裏部屋に追い込まれる使用人たちを解放する」。もう半数は車庫や倉庫と一緒に地下へ。建築家は「西からの太陽がいっぱいの使用人たちの部屋は緑の植えられたイギリス風小庭に面している」と掲載図面に書き添えることを忘れていない。

建物の平面は、横に長いH型だ。横棒に当たる部分が、エレベーターや階段や貨物用リフトといった垂直動線と、各住戸への入り口に当たる。1つの階に2戸または3戸が収まり、2つの中庭から各室に光を取り入れている。中央の1本だけ一直線からずれた5本の丸柱を配した平面は巧みで、それと隣家と接した壁面だけで支持されているため、改変可能な「自由な平面」であるのも特徴だ。天井高を法規で許される下限の2.5mまで詰めたことが、天井が高く流動する1階の共有空間に寄与している。

さあ、コレージュの家へ急ごう。

—[p.2-3に全文掲載]



光嶋裕介「コレージュのある幻想都市風景《ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート》
～ Urban Landscape Fantasia with Le Corbusier 《Immeuble locatif à la Porte Molitor》」